

アナログプレイヤーの比較試聴(24)

—モーツアルトを聴く(24)—

1. 始めに

前報(23)に引き続き、アナログプレイヤー3機種と比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種の試聴経路は、ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した前報(18)と同様です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は管楽器のアンサンブルの曲です。

ERATO EX-2315

モーツアルト フルートとハープのための協奏曲

クラリネット協奏曲

ジャン・ピエール・ランパル (フルート)

リリー・ラスキーヌ (ハープ)

ジャック・ランスロ (クラリネット)

ジャン・フランソワ・ピヤール指揮ピヤール室内管弦楽団

Columbia OS-420-R

モーツアルト フルートとハープのための協奏曲

クラリネット協奏曲

ジャン・ピエール・ランパル (フルート)

リリー・ラスキーヌ (ハープ)

ジャック・ランスロ (クラリネット)

ジャン・フランソワ・ピヤール指揮ピヤール室内管弦楽団

今回から、各プレイヤーにターンテーブルアキュライザーTACU-1 を使用していきます。

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

ERATO 盤は ZANDEN Model120 経由の LINN LP-12 と ThorensTD124 では、RIAA、逆相、第4時定数 Mid で聴いていきます。

Columbia 盤は ZANDEN Model120 経由の LINN LP-12 と ThorensTD124 では、Columbia、逆相、第4時定数 Mid で聴いていきます。

ERATO 盤は ThorensTD124 の再生では、盤質はあまり良くありませんが、フルー

トとハープのための協奏曲もクラリネット協奏曲も、解像度はそれほどでもないもののソフトで耳にやさしい音です。

LINN LP-12 の再生では、盤質も気にならず、ソフトでやさしい音でありながら、細かい音も間接音の響きもでています。

Grrad401 の再生では、少し粗いところがありますが、ソフトでやさしい音でありながら、躍動的な音です。

Columbia 盤は ThorensTD124 の再生では、ジャケットのクレジットには記載がありませんが、演奏から判断してエラート盤と同じマスターのものではないかと推察されます。盤質はエラート盤より良く、ソフトで細かい音まできれいに聴き取れます。なお、ジャケットには録音特性 RIAA と記載されていますが、Columbia カーブで良さそうです。

LINN LP-12 の再生では、ソフトで耳にやさしい音であることは上記と同様ですが、ThorensTD124 よりさらに細かい音まで聴き取れます。

Grrad401 の再生では、ソフトで耳にやさしく、細かい音も十分に聴き取れます。

4. まとめ

ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した結果も、3機種3様の再生パフォーマンスが確認できましたが、ターンテーブルアキュライザーTACU-1の効果もあって、ソフトで耳にやさしい音になっています。ERATO 盤と Columbia 盤は、ともに同じマスターからの盤と思われますが、後者の方がより肌理細かい印象です。

以上